

ごあいさつ

2019年度も花蹊記念資料館にかわらぬご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

『にいくら』25号をお届けいたします。

本号には二篇の論考が掲載されています。

横田恭三先生(文学部教授)による「『何如璋集』に登場する跡見花蹊のこと」と小川功氏(観光コミュニティ学部元教授)による「跡見花蹊と大和田建樹の親交－『鉄道唱歌』と跡見校歌『花桜』を結ぶ謡曲『碇引』－」です。

横田恭三先生の「『何如璋集』に登場する跡見花蹊のこと」は、光緒(清暦)2(1876)年、初代の清国駐日公使となり、翌年東京に着任、同9年まで日本に駐在した何如璋と花蹊とのかかわりについて、『何如璋集』の記述を手掛かりに、再考を試みたものです。清新な論考をお寄せいただきましたことに御礼申し上げます。

小川功氏の「跡見花蹊と大和田建樹の親交」は、「鉄道唱歌」の作詞者であり、かつ跡見の校歌も手がけている大和田建樹と花蹊とのかかわりを、『花蹊日記』や謡曲「碇引」を引証しつつ考察したものです。貴重な文章をご寄稿いただいたことに感謝申し上げます。

2019年度の資料館の活動報告は、本誌に掲載されているとおりです。また学芸員課程の記録については「2019年度博物館実習について」をご高覧いただければと存じます。

最後になりましたが、本誌完成のためにご尽力いただいた関係各位にあらためて御礼を申し上げたいと存じます。

令和2年3月吉日

跡見学園女子大学 花蹊記念資料館
跡見学園女子大学 学芸員課程